

2019年1月末日

日本原子力学会 2019年春の年会
理事会セッション
「原子力防災の現状と課題」のお知らせ

一般社団法人日本原子力学会

日本原子力学会 2019年春の年会(於 茨城大学水戸キャンパス)では、原子力防災に関する以下の企画セッションを開催します。

ご興味のある方は以下の Web サイトから参加手続きをお願いいたします*1)。

*1) 参加申込(事前申込、当日受付)については、日本原子力学会ホームページをご覧ください：

<https://confit.atlas.jp/guide/event/aejs2019s/static/registration>

聴講される方は、2019年春の年会聴講者参加料が必要です。

原子力防災の現状と課題

原子力規制委員会による審査を終了した発電用原子炉の再稼働が進められており、これまでに9基の軽水炉が再稼働したのに加え、6基が審査に合格、12基が審査中です(平成30年10月末現在*2)。一方、発電用原子炉が設置されている地元自治体では、避難計画を含む防災業務計画の策定が義務づけられていますが、その策定は基本的に自治体に任せられています。わが国ではUPZ圏*3)内の人口が多い地域もあり、例えば2018年9月に審査に合格した日本原子力発電(株)東海第二発電所はUPZ圏内の住民が約96万人と国内最大であり、有効な避難計画を策定することは重大事故発生時の住民の安全確保の上で非常に重要です。

上記の状況を踏まえ、日本原子力学会として原子力防災に対して今後どのように取り組んでいくべきかを検討するため、福島復興・廃炉促進に貢献する学協会連絡会の協力のもと、我が国の原子力防災の現状及び課題について議論するセッション「原子力防災の現状と課題」を企画しました。

本セッションでは、3つの講演(①国の専門家による原子力防災の現状(仕組み)についての講演、②実際の原子力防災に携わっている茨城県の担当者からの現場の状況に関する講演、③防災にかかる専門家から見た地域原子力防災についての講演)をいただいた後、講演者に加え住民(招待者数名)も参加した総合討論を行い、避難計画を中心とした原子力防災の課題とその解決に向けた取り組みについて議論します。

*2) <http://www.genanshin.jp/facility/map/>、*3) UPZ: 緊急時防護措置準備区域。概ね30km圏内

【日時】 2019年3月21日(木) 13:00~15:00

【場所】 茨城大学共通教育棟2号館3F30番

キャンパスマップ: <http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/index.html>

【プログラム】 座長:(日本原子力学会社会・環境部会長、関西大学教授)土田昭司

1. 開会挨拶 (日本原子力学会会長)駒野康男

2. 講演

1) 原子力防災の現状(仕組み)について (内閣府大臣官房審議官) 荒木真一

2) 広域避難計画策定における課題について (茨城県防災・危機管理部

原子力安全対策課原子力防災調整監)

土信田法男(どしたのりお)

3) 被災者支援から見てきた原子力防災の課題 (茨城大学教授) 原口弥生

3. 総合討論

上記講演者及び座長

以上